

平成28年度幼児教育推進体制構築事業

# 育ち合い、学び合い つなげよう未来へ



考えよう



活動しよう



働きかけよう



## 幼児期の学びを知り、小学校教育につなごう

子どもは、幼児期に遊びの中でたっぴりと学んでいます。子どもの育ちを理解し、幼児期の教育と小学校教育をつなぐことが大切です。そのためには、幼稚園・認定こども園・保育所と小学校とが接続を意識して連携し、共に取り組む必要があります。

### 幼児期 学びの芽生え

- ・ 楽しいことや好きなことに集中することを通して、様々なことを学んでいく。
- ・ 遊びを中心として、頭も心も体も動かして様々な対象と直接関わりながら総合的に学んでいく。
- ・ 日常生活の中で、様々な言葉や非言語でのコミュニケーションによって他者と関わり合う。※



接続期  
学ぶ力  
をつなぐ

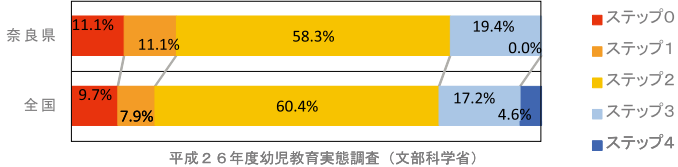
### 児童期 自覚的な学び

- ・ 学ぶことについての意識があり、集中する時間とそうでない時間（休憩の時間等）の区別が付き、自分の課題の解決に向けて、計画的に学んでいく。
- ・ 各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。
- ・ 主に授業の中で、話したり聞いたり、読んだり書いたり、一緒に活動したりすることで他者と関わり合う。※



## データから見る奈良県の現状

「市町村ごとの幼小接続の状況」

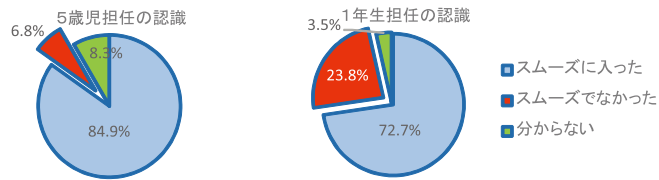


平成26年度幼児教育実態調査（文部科学省）

ステップ0～4については、15～16ページを参照

奈良県は、全国に比べ、交流に留まり、接続を見通した教育課程を基にした継続的な実践には進んでいないことが分かります。

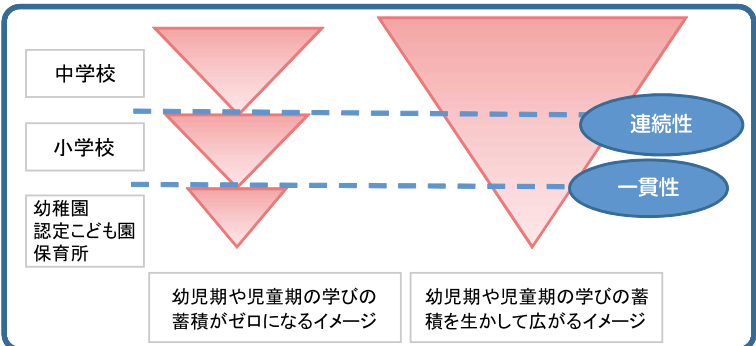
「小学校入学当初の小学1年生の小学校生活への適応状況」



平成27年度幼児期から小学校への接続期教育実態調査（奈良県）

幼稚園等と小学校の間で情報を共有し、共に取り組む必要性が見えてきます。

## ゼロからのスタートじゃない！

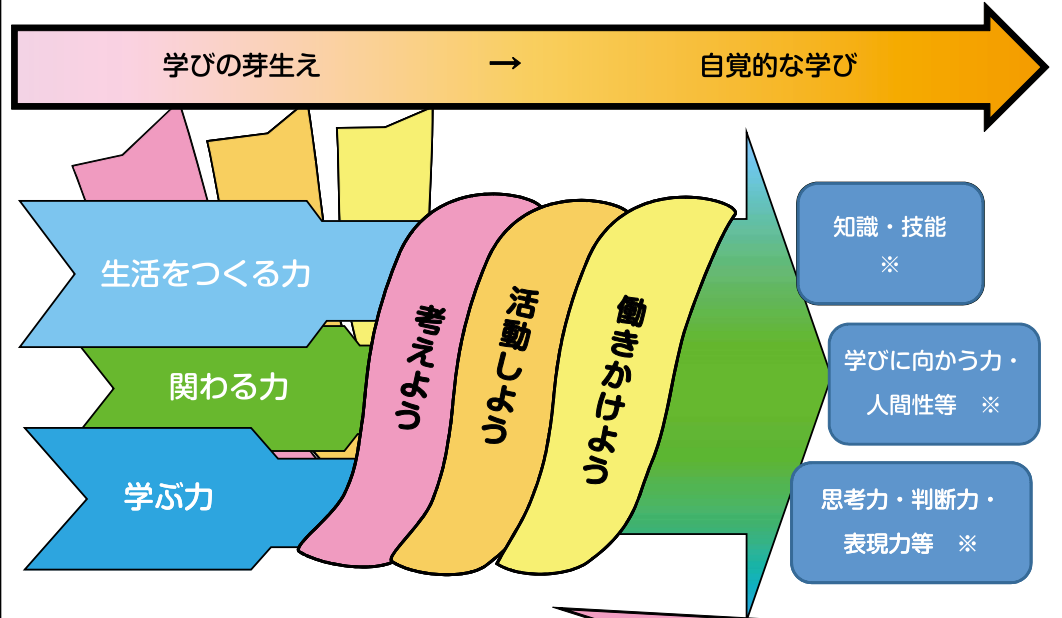


幼児期の学びは、児童期の学びの基礎になるだけではなく、幼児期の学びを生かすことで、児童期の学びをより大きなものにすることができます。

※スタートカリキュラム スタートブック（文部科学省）

## 「学ぶ力」をつなごう

子どもたちに身に付けてほしい力を明確にし、教員が関わり子どもが主体的に取り組めるようにすることが、その後の学ぶ姿勢や生きる力を身に付けることにつながります。その結果として幼児期の終わりまでに育ってほしい姿となることを共有し、幼児期の学びを小学校教育につなぎ、子どもたちの学びを大きいものにしましょう。



### 考えよう

様々な事柄について考えたり試したりし、経験を通して得た見方や考え方、知識などを遊びや生活、学習に取り入れ、生かそうとする。

### 活動しよう

基本的な生活習慣や生活に必要な技能を獲得し、自分でできることを増やし、見通しをもって最後までやり遂げ積極的に活動しようとする。

### 働きかけよう

身近な環境（ひと・もの・こと）に自ら働きかけ、思いやりや自己調整力をもち、自分の思いを表現し、生活や学びを豊かにしていこうとする。

### 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

※文部科学省初等中等教育分科会教育課程部会幼児教育部会取りまとめ

## 接続をかたちにしよう ～接続期カリキュラムモデルガイド～

幼児期の教育と小学校教育をつなぐためには、幼児期には、小学校教育を見通して幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を目指し、小学校では、幼児期に身に付けた力を生かしながら教育を進めることが大切です。また、主体性や自己肯定感を育む教育実践に取り組みましょう。

下の例では、付けたい力を

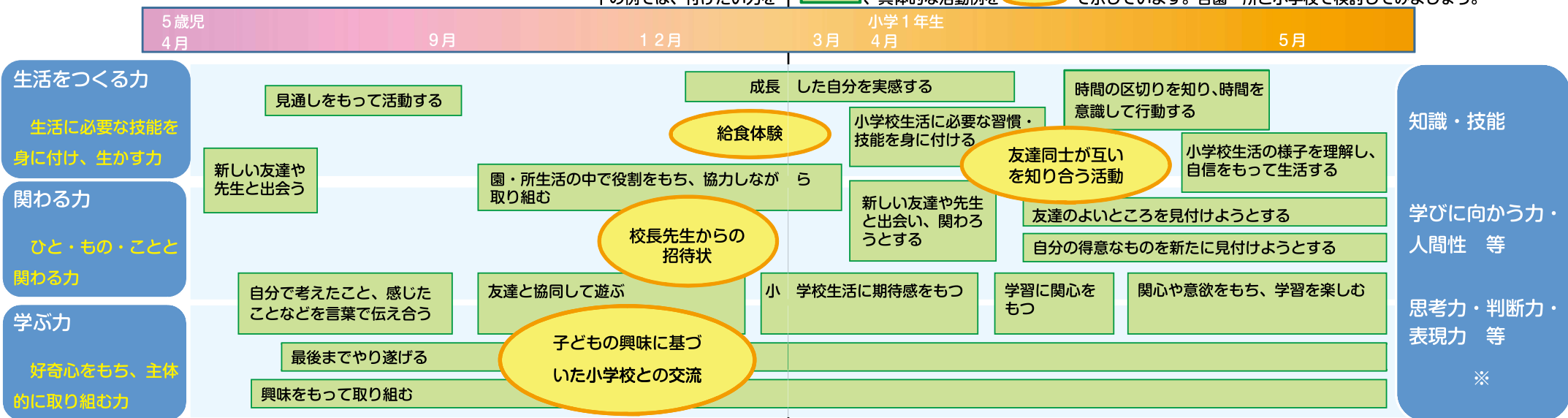
### カリキュラムの期間の目安

幼児期の「アプローチカリキュラム」は5歳児4月から又は9月頃から修了まで、児童期の「スタートカリキュラム」は1年生4月から5月頃までが目安。

### カリキュラムの内容

- ・子どもの実態や「幼児期に育ってほしい姿」をもとに、接続期に付けたい力を明確にする。
- ・その力を育むための具体的な活動を設定する。

緑色の長方形、具体的な活動例を黄色の楕円で示しています。各園・所と小学校で検討してみましょう。



## 各モデル地域の取組の概要

モデル地域	取組のポイント	子ども同士の交流に関する条件	接続に向けた教職員の取組	その他の特徴	各地域の取組を見よう
大和郡山市	接続期のカリキュラムづくりにトライ	・小学校と幼稚園が隣接していて、交流しやすい。 ・1年生が多く、交流方法の工夫が必要である。	・1年力に 生の入学時の困り感から付けたいについて検討を重ねた。	・隣接しているのですぐに足を運び情報交換ができる。	大和郡山市 →5ページへ
天理市	子どものつばやきから広がる 幼小交流 聴く力、伝える力をつないで	・徒歩で移動できる距離で交流しやすい。 ・幼児と小学生の人数が交流しやすい割合である。 ・日常的に情報交換ができています。	・子ども意見 もに付けたい力を共有し、交流及びを交換しながら教育内容を工夫する。	・管理職がリードし、取組を進めている。 ・取組を参考にしながらカリキュラム作成に着手している。 ・小学生と保育所児との交流も行っている。	天理市 →7ページへ
宇陀市	子どもと保護者の戸惑いや不安感が出発点 「小学校っておもしろそう」	・徒歩で移動できる距離で交流しやすい。 ・幼児と小学生の人数が交流しやすい割合である。	・子どもら もの戸惑いや不安感を出発点に、ねを明確にした交流内容を組み立てる。	・公立幼稚園、公立保育所、私立保育所3園・所で、就学を意識した5歳児交流を行っている。 ・市全体で接続期カリキュラム作成に向けて取り組んでいる。	宇陀市 →9ページへ
川西町	教育委員会がパイプ役 組織と人をつなぐ	・徒歩で移動できる距離で交流しやすい。 ・1年生が多く、交流方法の工夫が必要。	・まずら始 ・教育 は教職員が互いの教育を知ることがめる。 委員会が接続をコーディネートする。	・新しいことにも積極的に取り組める雰囲気がある。	川西町 →11ページへ
吉野町	子どもの姿をじっくり見れば、 子どもの学びが見えてくる 必要な活動が見えてくる	・徒歩での行き来が困難。 ・幼児と小学生の人数が交流しやすい割合である。	・限ら 見せ れた交流の機会を生かし、交流でる子どもの姿を読み取る。	・こども園の卒園児が多いため、子ども同士が親しみを持っている。 ・町全体で協議会をもち、町の子どもの姿をみんなで育てようと取り組んでいる。	吉野町 →13ページへ
あなたの地域は？ 上記を参考に書き込んでみましょう					あなたの地域に似ている部分や参考にした取組を見つけて、ページを聞いてみてください。